

春の岬 中野宮三筆

ぼけの花 中村勝治郎筆

日蔭棚 安宅安五郎筆

港 工藤三郎筆

船 小林鍾吉筆

初冬晩暉の図 岡田三郎助筆

廃園 白瀧幾之助筆

南方収獲図 伊東深水筆

⑪ 終戦前後の学生生活

学徒出陣により多数の生徒が去った本校では、残った生徒もまた異常な学生生活を強いられた。当時の在校生であった市瀬幸助氏が資料を寄せて下さったので、この空前絶後の異常事態について記録しておく。

市瀬氏は昭和十九年四月に日本画科に入学した。一カ月程していきなり美校改革が断行され、新旧教師の交替があったが、一方戦局は日毎に悪化し、正常な授業が行われたのはその年の夏休みあけまでであった。秋には全学生に勤労働員の命令が下り、氏は各科混合編成三十名程の隊に加わり、内藤春治引率のもと、盛岡市郊外の陸軍航空整備隊へ行き、続いて西田正秋引率のもと、郡山市郊外の同様施設に配属され、整備兵教育用の教材掛図作成に従事した。十一月下旬に一旦動員解除となって帰京したが、その翌日からB29による大空襲が始まった。

翌二十年四月、進級と同時に再び勤労働員となり、羽石弘志引率

のもと、戸塚海軍衛生学校に行き、衛生兵教育用掛図等の作成に従事。無理な生活がたたって病気になる、一時郷里の飯田に帰って休養し、八月九日に上京。その翌日、父に宛てて次のように書き送った。

前略、昨九日午前四時、無事着京致しました。道中、辰野駅待合室で二時間待たされました。途中で空襲警報が発令されました。中央線の車内は、身体を動かすことの出来ない程の混雑でした。今朝は午前七時起床と同時に空襲となり、B29数編隊が来襲、板橋方面が大分やられました。当方は無事でした。只今午前十時、警報が解除になりましたので、これから戸塚へ出掛けの予定です。

(二伸) 日ソ戦争状態に入れり、とのニュースを聞き、大いに驚きました。愈々最後の段階になりましたね。日ソ間を多少とも有利に考えていた楽観は見事に裏切られました。僕もいつ召集されるかわかりません。これからは空襲も南北から一層はげしくなるでしょう。呉々も気を付けてください。

八月十五日、氏は教務に用事があって登校すると、美校生は一人も居らず、教室を借りていた外事専門学校の生徒たちが居るばかりで、彼らとともに戦争終結の玉音放送を聞いた。その二日後に再び父に次のような手紙を出している。

前略、飯田から戻って以来この十日程の間に、世の中は信じら

れない程に急変をしてしまいました。十五日の陛下の特別放送は、学校にて謹んで聞きました。日本は遂に破れました。感慨無量です。あまりの事で何も云えません。学校は果して再開されるかどうか判りません、これからどうしてよいのか、ご意見があったらお知らせください。

敗戦後の混乱のなかで、一応学校が再開されることとなり、十月一日には開校式が行われた。帰省していた氏も上京したが、住む所もなく、校内の倶楽部に仮住まいする以外になかった。その生活の様子を父への手紙（十月五日）に次のように書いている。

前略、無事着飯の事と思ひます。うまく座席に坐れましたか。小生はあれからホームで兄と別れ、三十分程電車を待ち、十時半頃美校寄宿舎〔倶楽部のこと〕に着きました。

翌朝（三日）は飯のアテがない為、持参のキナコで済まし、後、日本画の小使のばあさんにリンゴを二ケやつて無理に頼んで其の日の昼と夜の分を炊いて貰ひました。なにしろ豆が多いため、おかひ〔ゆ〕の様に柔かく炊いて貰ひ、おかづには肉缶詰を開けましたが、大分酔っぱくって来ました。後、外食の手続をしました。外食して居るものに聞く所によると、量が少なくて（営業者がごまかす為）少し歩いて居ると直ぐ腹が減つて来るとの事ですから、食の合間に持参のキナコでもねぶつて居やうと思つて居ます。

四日、今日は朝からひどい雨です。朝食はばあさんに炊いて貰

ひ、鍋を借りて酔っぱくった缶詰を煮ておかずしました。昼食はばあさんからどんぶりを借りて、飯の上へキナコをかけ、寮生に生味噌を盃一杯貰ひ、それをなめて済ましました。夜食も同じ献立です。今の所学校へは誰も出て来ません。倶楽部（寄宿舎）の中では皆ゴロ／＼して居り、外食者は動くお腹が減ると言ひ、自炊者は一日中飯炊きにかゝつて居ります。今のところ食、住とも落ち着かず、到底勉強どころではないです。此の冬の寒さに対して何とかしなければなりません。

午後、外食の手続の為、転入に区役所と町会事務所へ行きましたが、中々うるさく、むづかしくて、今日は駄目でした。雨がびしょ／＼降るので区役所までは大変です。午後四時半、飯を食べ居たら、小原君が友達をたづねて来て丁度居たので、久し振りに語りあひました。小原は退学して田舎に居たさうです。大分変わった来ました。

小生はなにしろ上京以来食事、宿舎に気をつかったり、荷物を運んだりした為、心身共疲れ、お父さんの帰った翌朝から急に疲れが出、体がかたつたるくなって来ました。仕方がないので、用のない時はフトンを敷いて寝て居りますが、なにしろ一室に大勢居てガヤ／＼するのでロクに眠れもせません。こんな所では到底落ち着いて絵など描けないですから、どこか近くの下宿屋でも探さうと思つて居ります。

五日、朝六時起床、今日も朝からの土砂降りです。朝食はヌキにしてキナコにする。今日は昨日、おと／＼の蒸し暑さに引き替へ、ぐつと寒い。シャツを一枚出して重ねて着る。今

日の昼やつと外食の手続が終つたので、昼食に始めて下谷桜木町の外食券食堂へ行く。店が狭いので中々の混雑だ。値段は朝食三十銭也で、おかずには味噌汁。昼食、夕食は六十銭で味噌汁の外にニシンの煮たのが付きます。御飯はドンブリに中指位の長さの芋が五切れ位に茶飲み茶碗に軽く一杯位の米で、少々驚きました。少なくとも二食食べなくては腹が減りますが、しかしさうすれば外食券がなくなってしまうから、どうしても家から芋でも出来たら送って貰って、足しに焼いて食べるより外にしようがありません。他の生徒に聞けば、腹の減つた時は二食食べて、券がなくならたら家へ帰って食べて来るのだと言ひましたが、しかし彼は群馬県で、家が近いから良いでせうが、小生は家が少々遠いから、そんな事はだめです。今日は岩男兄の所へ行かうと思ひましたが、相変らずの土砂降りで行けなかつたです。此の分では宇井さんもさわかちの所もちょっと行けないです。

今夕七時のニュースで内閣総辞職を聞きました。天気予報によれば明日になれば天気が良くなるらしいから、良くなつたら兄の所へ行かうと思つて居ります。では又、皆様によろしく。寒さに向ふ折から呉々もお体を大切に。

(今ラヂオはお好み演芸会で万才をやつて居ます。部屋は畳数は八十畳で、今日唐紙で三間に分けました。廻りには幅一間の廊下がグルリとあり、僕は真中の部屋に寝て居ます。)

草々

この手紙のように、他所に下宿できない生徒たちは倶楽部の建物

に寝泊まりして授業再開を待ったが、本格的に授業が始まったのは年が明けてからのことだったらしい。外食券を持って上野駅周辺の食堂へ行けば、公園口は浮浪者の溜り場となつていて、いつも餓死者の死体のごろ／＼ところがっている。夕食の時には薄暗くなった公園内の道にびっしりと立ち並ぶ女性たち(生活のために都内各地から集まつて来た人たちで、まだ専門化した街娼ではなかった)の間を通り抜けながらの往復であつたという。

⑫ 戦後の出発

終戦後の十月一日、学校が再開された。当日の上野校長の式辞(本書別巻『上野直昭日記』参照)は平和国家建設へ向けて再出発する決意を促すものであつた。教師たちは敗戦と占領による世情の激変の下で、物資不足と闘いながら教育の場の再建へ向けて力を注いだ。その一人である村田良策は教頭格の立場で諸問題と取り組み、昭和二十四年七月に本校最後の校長に就任するが、彼は終戦後一年目の『アトリエ』誌上で次のように心情を吐露している。

美術教育への反省

村田良策

苦しい時代が始まつた。そして新しい日本再建に凡ゆる努力をしなければならぬ。悠々と煙草もふかしてゐるわけにゆかない。日に日にわれわれの身邊には冷酷な風が吹きまくる。花どころのさわぎではない。しかし、こゝが大事な瀬戸ぎわである。日本再建への方途をいま深重に、深重すぎるほどに考へるべきだと